

令和 5年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490400023	事業の開始年月日	平成17年5月1日
		指定年月日	(平成17年5月1日) 令和2年4月1日
法人名	社会福祉法人豊笑会		
事業所名	ライフインハウス日ノ出		
所在地	(〒231-0066) 横浜市中区日ノ出町2-132-3		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和5年12月3日	評価結果 市町村受理日	令和6年1月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

京急線日ノ出町駅から徒歩4分の神社や学校・公園に近い住宅地に有り4階建て屋の3・4階に位置している。バス通りからひとつ入っている為思ったより静かで隣の公園から子供達が遊ぶ声が聞こえてくる環境です。

法人が特別養護老人ホームを運営しており、家族には安心感を与えている。

初詣は隣の神社に参り、桜の時期は大岡川桜まつりに参加、夏は子神社例大祭に参加、地域の行事に参加している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和5年12月18日	評価機関 評価決定日	令和6年1月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇法人の介護サービス間の協力関係

・法人は居宅介護サービスや特別養護老人ホームも運営している。特別養護老人ホームの所長が内部研修の講師を勤めるなど、サービス間での協力関係を深めている。介護についての相談や適したサービスの案内など、利用者と家族に安心を与えられる事業所となっている。

◇地域との交流やつきあい

・1階の空きスペースを活用し、町内会の桜まつりや隣接する神社の8月例大祭などに交流の場として開放し、トイレや休憩に使えるようにしている。また、成人の日の餅つきには法人所有の杵と臼を貸し出し、地域交流に努めている。

・看護学生の実習(1回2名で年間15~20名)を受け入れ、また事業所の避難訓練に自治会長が参加するなど、地域の一員と認められている。

【事業所が工夫している点】

◇手作り昼食の工夫

・「昼食作りレク」を3階は月1回、4階は週1回行い、利用者に喜ばれている。利用者には食べたいものを尋ねて、職員が近くのスーパーなどで食材を購入し、利用者や職員と一緒にハンバーグやグラタンなどを作っている。

・利用者のおやつ作りを支援し、プリンアラモードなどのおやつと一緒に作っている。片付けも一緒に行い、食事が楽しくなるよう支援している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ライフインハウス日ノ出
ユニット名	3F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員は理念である穏やかで微笑み豊かな介護を目指し家族や地域の方々との関係を大切に介護に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・法人と事業所の共通の理念を1階玄関と3階・4階のフロア入口に掲げて、管理者・職員と家族・来訪者が共有できるようにしている。 ・朝の申し送り時や定期的カンファレンスにおいて、理念を確認し、実践できるように努めている。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>天気の良い日などは散歩や屋上に上がり近隣の人とふれあいを持てるようにしボランティアや町内会の催しに参加している。</p> <p>買い物になるべく外出するように心掛けている。</p> <p>コロナ過で地域の行事も軒並み中止となっている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地元自治会に加入し、お祭りや避難訓練の炊き出しに参加している。隣接する神社の8月例大祭には、1階のスペースを交流の場として開放している。 ・看護学生の実習を受け入れ、地域とのつながりを大切にしている。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>外出時は地域の方々とのふれあい理解を深めて開放的な施設作りに努めています。</p> <p>定期的に看護学生の実習を受けています。</p> <p>見学の希望があればご希望に応じて案内・説明を行っている。</p>		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に民生委員、町内会長により情報を共有し、ホームの状況報告を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・2か月に1度、運営推進会議を対面で行っている。季節感のあるイベントやレクリエーションの活性化に期待が寄せられている。 ・離床センサーの不具合の指摘について、直ちに検証し、反省点を報告した。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題点等あれば区役所に相談連絡を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・区とは通知や手続き、高齢者支援の取り組み、行政報告、ワクチン接種の推進などで、相談や連絡を心がけている。利用料金の滞納について相談したことがある。 ・認知症や介護の取組みの指導も受け、協力関係を築いている 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について十分に理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。委員会メンバーを決め勉強会、報告を3ヶ月に1回行っている。防犯上、安全面を考慮し玄関は施錠している。	・3か月ごとに身体拘束委員会を管理者、各フロアリーダー、職員4～5人により行い、記事録を回覧している。 ・内部研修は、厚労省による「身体拘束ゼロへの手引き」や内部資料の「身体拘束マニュアル」を用いて行い、適切なケアに取り組んでいる。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会、勉強会を定期的に行い正しい知識を学び職員同士が常に気を配り身体チェック等を心がけ痣、傷等発見した時など原因等を探し又原因となった要因を話し合い事業所全体で注意を払っている。 スピーチロックに気を付けている。	・虐待防止委員会や職員会議の中の「勉強会」において虐待について学び、その防止に努めている。 ・入浴時や就寝時の義替えの際に、アザや傷がないか確認している。言葉づかい、特にスピーチロックに気を付けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等の参加は促しているが、コロナ禍においてなかなか参加できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書、運営規程で行い、疑問点、理解出来ない点は納得して頂けるまで説明し、改訂等は書面にて説明し、同意を得ている。管理者が家族に説明を入居時に行っており、不安や疑問点は必ず尋ね理解するようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に話をするようにして家族の意見を聞く環境作りをしている。 各フロア入口に苦情受付用紙が設置されている。 コロナ禍で面会も制限があったが定期的に手紙で近況報告してご家族よりの意見、提案には出来る限り反映出来るように努めている。	・家族等の意見については、面会時に話を聞いたり、月ごとの近況報告の返信で意見、要望、提案を求めている。 ・個別に意見・要望を受けた場合、連絡帳による引き継ぎやリーダー会議で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア会議、日々業務の中で職員の話聞き話し合いし意見を業務に反映させている。 細かく職員の意見を聞いている。	・日常業務の中の確認だけでなく、職員面接・契約更新の時に意見を聞く機会を設けている。 ・職員の意見に基づき、週3回午後としていた入浴について、業務の分散のため午前も分けて行うようになった。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部が定期的に事業者を訪問し勤務状況、職員環境、整備に努め働きやすい環境を整えられるように努めている。有資格者には手当を設け、資格取得研修を支援し、職員の要望や業務改善案を受け入れる様に努めている。	・就業規則を整備し、給与水準、職場環境、健康管理、ハラスメント対策などに注力し、働きやすい職場となるよう努めている。 ・介護資格の取得支援のため、シフトを調整したり受講料を全額負担している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修や実務者研修など外部研修などの機会を設けている。 講習会、研修会の資料を配布し職員が閲覧出来るようにし介護福祉士の育成に力を入れて職員の介護の向上を目指している。	・内部研修は年間計画を定めて実施している。初任者研修や実務者研修の外部研修は、配布資料を回覧し、機会のある度に受講を勧めている。 ・新入職員には接遇や身体拘束の講義を行い、ベテラン職員がOJTでケアの技術を指導している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍で行えていないが職員、個人個人は連絡し合って情報を交換しとり入れることはある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前にご家族、本人の要望等を聞き取り出来る限り要望に添い安心した生活が過ごせるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時から不安がないよう快い雰囲気を作り電話相談、見学、訪問と段階的に話を聞く。 家庭での認知症の状況、家族状況等聞きながらご家族が話しやすいように配慮し何でも話せる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況確認しご家族等とも話し合い他のサービス利用も含めて必要な支援に努めている。(訪問診療、訪問看護、薬学的管理指導等)		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の話を傾聴し職員本位ではなく利用者の立場に身を置き考えることを心掛け話し合いを行っている。 掃除、お手伝いは各場所を決め利用者を手伝って頂いている。 生活を共にする家族という意識を心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に紙面で担当者から近況報告をし、面会時に日々の様子を伝えご家族の意向を聞きながら共に支え合っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で馴染みの人との面会は難しいが馴染みの人の手紙、写真等保管し居室で眼の届く場所に置く事により本人が大切にしてきた関係性を大切にするように支援に努め本人との会話を多く持ち生い立ちや思い出話を聞いている。電話で話したりと関係継続に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が大切にしてきた馴染みの人や場所の把握は、入居時の面談で行っている。日頃の会話の中で、思い出話やよく通った店などを聞いて申し送りや会議で共有している。 ・馴染みのラーメン店やレストランでの外食を支援している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりの性格や思い、その場の気持ち等考えながら、いかに楽しく、のびのびと過ごして頂けるか、席替えを考えたり、必要に応じ職員が中に入り孤立しない様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族との関係性は絶つことなく必要な時に相談もあり関係性は続いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居室担当者を置き、担当者が中心となり要望、意見を聞き送り、フロア会議等にて他職員に把握してもらい意向に沿った生活を送って頂けるように努めている。	・一人ひとりの思いや暮らし方の思いは、利用者本人や家族から把握するよう努めている。 ・意思表示が困難な利用者や苦手な利用者には、日頃のケアサービスの中から、会話や活動・仕草の中からくみ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室に生活歴のあるものや馴染みのものを置く事により意向になるべく沿った日常生活を送るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の血圧測定、検温、脈拍測定、介護記録、申し送りノート等により状態把握に努め一人ひとりの生活リズム、感情の変化に合わせ、有する能力の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から生活習慣や趣味を聞き介護計画に反映している。 毎月のユニット会議で課題を検討している。	・ケアプランの有効期限は6か月または1年で、状況変化時にも見直している。モニタリングは居室担当が毎月行っている。 ・モニタリング結果と医師や看護師の意見、利用者や家族の要望を取り入れてケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月1回会議や申送り等で情報を共有しながら見直しに活かしている。 個々の生活記録、申し送りノート、毎日の日中、夜間の日誌等で情報共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療、訪問看護、訪問歯科診療、薬学的管理指導、状況により病院付き添い等、その場その時により柔軟な支援、サービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為自由に行えていないが地域のお店で季節の食材を購入して料理作りで季節を味わって居る。地域資源との協働は常に考えるようにしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回の回診があり、1回/2週に歯科口腔ケア検診を行っている。 必要に応じて体調急変時には、相談、対応を行って頂ける体制になっている。	・家族の同意を得て、利用者全員が協力医をかかりつけ医としている。 ・協力医は月2回の訪問診療に加え、電話で24時間対応している。 ・看護師が週1回、歯科医が2週に1回訪問している。皮膚科医には必要に応じて往診を要請している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護師に必ず個別に診て頂き、同建物内にデイサービスを行っているため特変時にはデイサービスの看護師に相談し対応をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供し主治医、相談員からの説明時は家族と同席し状態により医療関係者と相談し関係作りしながら早期退院に繋げている。近隣の病院のMSWより入居の相談を受けている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた方針は入居時に説明しているが、その時の状況により再度家族の意向確認とホームで出来る、出来ない等話し合いながら本人家族がより安心できるように支援している。主治医と連携してホームでの看取りも行っている。	・入居時に、重度化や看取りについて利用者と家族に説明し、同意を得ている。重度化した場合、協力医と家族で話し合っ方針を決めている。看取りに付き添う家族もいる。 ・職員は看護師から看取りの指導を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が解る場所にマニュアルを置き確認をしている。 会議等で説明を行うようにしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。 避難訓練に参加出来ない職員には資料を配布している。	・年2回（うち1回は夜間想定）避難訓練を行っている。地域から自治会長などの参加がある。 ・設備会社の協力で消火訓練を行っている。 ・飲料水やアルファ化米、レトルト食品などを3日分備蓄している。	・緊急時に慌てず使えるように備蓄品の一覧表を作成すること、また、消費期限を記載して管理することが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としてプライドを傷つける様な言葉遣いはしない様に、人生の先輩として尊敬した言葉遣いや対応に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシー保護のため、トイレや風呂場のドアは必ず閉めることを徹底している。 ・接遇の研修を年1回行い、人生の先輩として対応するよう職員に指導している。利用者への呼びかけは苗字に「さん」付けとしている。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に決定しやすいような声掛けを行い対応支援している。 本人の意向が確認しにくい時は表情等の変化を察知し考慮して支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れは決まっているが、利用者の身体状況・意思・希望・ペースに合わせて起床時間・食事時間等を臨機応変に変更して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用し、利用者の希望に合わせて行っている。化粧品等も希望があれば購入するなど支援している。着る物は入居者自身で選んでもらう様にしているが、体調・天候・気候に応じて、職員が声掛け、介助する場合がある。 起床時、入浴時は服を本人に選んでもらう。散歩、外出時にはアクセサリや帽子、おしゃれなどに気を配っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回は職員と利用者全員で手作り昼食やおやつを作っている。 誕生日会は本人の好きな献立を取り入れ手作りで提供している。	<ul style="list-style-type: none"> ・献立と食材は業者に依頼し、利用者の苦手なものは変更している。 ・週1回または月1回「昼食作りレク」で、利用者と一緒にハンバーグやグラタンなどを作っている。 ・プリンアラモードなどのおやつを利用者が作るのを支援している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量は記録した表により確認できる様になっている。 食事量、飲水量は記録し飲水少ない方は好みの飲み物、ゼリーにしたりとして提供しているがそれでも少ない利用者は家族に好みの物を持参して頂いて出来るだけ飲水、食事量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを実施し、週に1回は口腔ケアで歯科医に口の中の状態を診てもらって、アドバイスをもらっている。指摘された点は洗面台近くに掲示し、スタッフが日常の口腔ケア時に注意して対応している。 夜間は義歯を預かり、洗浄・消毒をしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシート確認しながらトイレへの声掛け、見守り、利用者にあわせての介助。又ステップアップの為にほぼ全員の方にトイレでの排泄、日中紙パンツ+パットから布パンツ+パットに変更事例もあり。	・排泄チェックシートで一人ひとりのパターンを把握し、トイレに誘導している。自立している利用者には見守りと確認を行い、着替えた下着を入れる容器を居室に置いている。 ・入居時のリハビリパンツから布パンツへの改善例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時にヨーグルトにオリゴ糖を入れる。 また、適度な運動やビデオ体操を行なっている。 食後のトイレ誘導・体操等も実施しているが、それでも便秘してしまう場合は、往診医により処方された緩下剤の服用をしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴前には血圧、体温、状態の確認を行う。大体の入浴日は決まっているが体調、気分、希望のタイミングに合わせて柔軟に対応。入浴時は1人ひとりとゆっくりコミュニケーションが取れ、話が弾むので楽しく入浴出来るように支援している。	・週3回の入浴を支援している。利用者の状況に応じてシャワー浴としている。 ・利用者は職員と歌を歌ったり、話をしたり、背中を流してもらうなど入浴を楽しんでいる。入浴剤やゆず湯も楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は1人ひとりの活動は異なるが出来るだけ役割を持つての活動を声かけ午睡は利用者に合わせながら休息して頂き夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報（容量、作用、副作用）は一覧表にしてあり、毎食後等の服薬量も薬表があり服用介助毎に2名で確認し服用、口腔内に残ってないかまでが服用確認としている。 又薬学的管理指導で薬剤師より定期的に指導あり。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭きを始めとして各々できる事をお手伝い頂き、役割を持つ喜びをもって頂ける様にしている。 残存機能を生かし、少しでも張り合いの有る生活をして頂ける様にしている。 買い物等もスタッフと一緒に掛掛けて、気分転換を図ってもらっている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩、外出レク、花見等行っている。 しかしコロナ禍ではなかなか外出する機会が減ってきている。	・利用者が近所を散歩したり、色鉛筆やハンドクリームなど欲しいものを買に出るのを支援している。 ・利用者は外出レクリエーションの花見や紅葉狩りで季節を感じている。また屋上で洗濯物干しやおやつを食べながら日光浴している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品やおやつ等の買い物は家族の了解を得てスタッフと買い物している。基本的には家族が管理しているが、御家族の了承を得て手元に現金を持っている人はいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があった場合家族に電話したり手紙の希望があった場合は、はがきを渡して書けるように支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持ち込みをお願いしてお持ち頂いている。 季節毎に壁面に飾るものを利用者と一緒に考え作っている。空調は気候により調整し日中は窓を開放し心地よい空間で気持ちよく過ごせるように工夫している。	・冬場は乾燥しないよう加湿器をリビングや廊下に設置している。 ・紅葉など季節の図柄の貼り絵を利用者と作成し、壁に飾っている。 ・掃除は毎朝夕行い、手すりやドアノブはアルコール消毒している。 モップ掛けを手伝う利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	掃除の手伝い・お茶のパック詰め等できる事を、無理無くして頂いている。 各所に表示をして分かり易くしている又廊下幅が広く取っており、手摺りを設置して安全に移動し易い様にしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やもの、家族写真、本人の馴染みのもの、好みのものを持参され本人にとって居心地よく過ごせるように家族と相談しながら工夫している。	・居室にはクローゼット、照明、エアコン、ベッドを備え付けている。 ・利用者はテレビや化粧台、仏壇、家族の写真等馴染みのものを置いて、居心地よく過ごしている。 ・衣類などの整理整頓は居室担当が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下には手摺りなどを多く配置し歩行、トイレなどご本人が自立できるようにしている。 車いすが通りやすいよう廊下も広めである。		

事業所名	ライフインハウス日ノ出
ユニット名	4F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関、フロアの入口に掲示してあるので職員は理念を共有し常に利用者に喜んで頂けるよう努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近年は地域行事に参加させていただき、よい交流の場となっているが、現在は、新型コロナウイルス感染対策のため参加は自粛している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出時は地域の方々とふれあい理解を深めて開放的な施設作りに努めています。 定期的に看護学生の実習を受けています。 見学の希望があればご希望に応じて案内・説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に民生委員、町内会長により情報を共有し。ホームの状況報告を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題点等あれば区役所に相談連絡を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について十分に理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。委員会メンバーを決め勉強会、報告を3ヶ月に1回行っている。防犯上、安全面を考慮し玄関は施錠している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待拘束の資料は各フロアに配布されており入浴時にはアザ、傷が無いかの身体確認を行うようにしています。職員同士が虐待行為にならないようお互い注意を払っている。スピーチロックにも気を付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料はフロアに配布されている。フロア会議等で内容は伝えられているが、実際には管理者が対応しており、全職員が関係者と対応する事はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が家族に説明を入居時に行っており、不安や疑問点は必ず尋ね理解するようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見や要望を聞くように努めそれを管理者や職員は話し合って実現に務めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでは意見を言える環境作りを考えている。 ・普段からスタッフとコミュニケーションを取り、内容によっては毎月予定している本部との管理者会議でスタッフの声を反映している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・勤務時間や個々の勤務形態希望を定期的に確認しスタッフと話が出来るように心がけている。 処遇改善手当の支給はしっかりされている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・コロナで外部の研修が中止となったため、初任者研修や実務者研修など外部研修などの機会を設けている。 講習会、研修会の資料を配布し職員が閲覧出来るようにし介護福祉士の育成に力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍で行えていないが職員、個人個人は連絡し合って情報を交換しとり入れることはある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを兼ねて本人に会って、本人の生い立ちや家族歴、趣味や嗜好等色々なお話をしたり、お話を聞かせて頂いたりして、お互いに理解できる様に努めている。見学のときにも本人から話を細かく聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントに目を通して家族等が相談し易い雰囲気を作るように努め不安が解消するように対応している。 電話、見学等で話を聞く機会を多く持てる様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の生活歴などを理解し新しい生活に慣れて頂けるように居心地良く過ごして頂けるように支援の見極めと対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の話を良く聞き会話する時間を作る事により、同じ時間と空間を共有する者同士としての関係を築いている。掃除などは各状況に合わせて手伝って頂いている。 洗濯物を畳んで種類別に分けるお手伝いをして頂いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に紙面で担当者から近況報告をし、面会時に日々の様子を伝えご家族の意向を聞きながら共に支え合っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で馴染みの人との面会は難しいが馴染みの人の手紙、写真等保管し居室で眼の届く場所に置く事により本人が大切にしてきた関係性を大切にするように支援に努め本人との会話を多く持ち生い立ちや思い出話を聞いている。電話で話したりと関係継続に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者1人1人の性格を理解し皆で仲良く生活していけるよう声掛けしたり、共同で作業や活動をしていけるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も年賀状・暑中見舞いを送ったりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中でのコミュニケーションにより本人の要望や意見を聞き一人ひとりの思いを尊重しなるべく沿った日常生活が送れるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの情報や会話の中での情報を把握しその人らしさを見出すようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントの情報や日々の生活状態を見て一人ひとりに合った生活支援を目指して話し合い情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りで様子を把握、毎月フロア会議で状況を話し合い家族の意見も参考にし計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や日々の記録を記入し申し送りで情報を共有しています。共有した情報を介護の実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の様子と観察の変化を把握し家族の希望、要望に対応出来るよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は近くのコンビニを活用し馴染みの店になるよう支援していたが、コロナの関係で一緒に行けなかったため、希望をお聞きしてスタッフが買い物に行っている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回、提携病院より回診があり、1回/2週歯科口腔ケア検診を行っている。必要に応じて体調急変時には、相談、対応を行って頂ける体制になっている。医療連携体制加算、看取り実施により毎週訪問看護による体調管理をしている。家族や本人からの相談要望にも適切に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の変化や体調等について訪問看護師に伝え相談助言をしてもらい連携を取っている。必要時には医療処置を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員は必要物品を届けて様子を聞いたり退院後も症状に応じて病院との連絡を取っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医と夜間も連絡が取れるようになっていて、緊急時には来所して頂いている。家族とも連絡が出来るようになってきている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故時のマニュアルは各フロアに掲示してある。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中、夜間想定避難訓練を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに気を付け、入居者の人格を尊重する様努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が日常生活の中で自己決定出来るよう、本人の思いや希望を大切に出来る範囲で聞いて自立支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の身体状況や意思と希望を一人ひとりのペースを大切にケアに当たっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る物は、選べる人には、御自身で選んで頂き体調や天候等により助言しながら決めている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は決められた献立により食事をしているが月1回は職員、入居者で手作り昼食を楽しんで頂いている。誕生会や手作り昼食、おやつ等は利用者の希望等を聞き入れ手作りの場合は利用者にお手伝いをお願いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材はタイヘイに依頼しており栄養摂取量・バランスに関しては問題は無いと思われる。食事量・水分摂取量は記録した表により確認できるようになっている。体調・気分により摂取量が少ない方は栄養補助食品で補ったりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日食後の歯磨きを実施し、2週に1回は口腔ケアで専門家に口の中の状態を診てもらって、アドバイスをもらっている。指摘された点は洗面台近くに掲示し、スタッフが日常の口腔ケア時に注意して対応している。夜間は義歯を預かり、洗浄・消毒をしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、介助の必要な方には定時誘導し、その他の方は声掛けにて行って頂くようにして、トイレにて排泄できる様声掛け・誘導をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳、10時のお茶の時にヨーグルトを提供し、食後のトイレ誘導・体操等も実施しているが、それでも便秘してしまう場合は、往診医により処方された緩下剤の服用をしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は大体決まっているが（週3回は入浴したい為）、行事・体調により曜日変更をしている。入浴前には、必ずバイタルチェックを実施し、体調管理をすると共に、入浴（通常・短時間）・シャワー・清拭・中止等を決めている。入浴中は職員と会話を楽しんでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調・身体状況により居室で休んでもらう様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の週間壁掛けポケット（曜日と朝・昼・晩の仕切りがある）と袋により分類し、服薬時は名前の確認をして手渡し・口に入れる等し、飲み込むまでを確認する様にしている。 処方薬の説明書は個人ファイルにファイルし、副作用等の記載を読んでいる。 新しく薬が処方される際は、必ず連絡ノートや申し送り等で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々できる事をお手伝い頂き、役割を持つ喜びをもって頂ける様にしている。 年間を通して季節毎の行事に参加して楽しんで頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	川沿いを散歩したり近い所では買い物（コンビニ・花屋）に行かれたりお花見、紅葉と季節ごとに外出をし季節感を感じて頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が少しでも手元に持っていたいと言われる方は家族の了解で本人が管理している。 基本的にはホームで管理しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や手紙は喜ばれるので、協力して頂いている。 手紙・はがきは、自由にやり取りしてもらっている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持ち込みをお願いしてお持ち頂いている。 本人・家族で居室内の設えはして頂いている。その後の変更は、職員と入居者で相談をして実施している。 誕生日のお祝いボードやその方の作品を飾ったりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席の他にソファ・テレビが有り、各々リラックスした自由な時間を過ごしている 本・アルバムも見る事が出来る様に置いてある。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人の使い慣れた物の持ち込みをお願いしてお持ち頂いている。 本人・家族で居室内の設えはして頂いている。その後の変更は職員と入居者で相談をして実施している。 バースデーカードやその方の作品を飾ったりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除の手伝い等できる事を、無理のない範囲でして頂いている。 トイレや風呂など各所に表示をして分かりやすくしている。 廊下幅が広く取ってあり、手摺りを設置して安全に移動できる様にしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ライフインハウス日ノ出

作成日 令和 6年 1月 12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	緊急時に慌てず使えるように備蓄品の一覧表を作成すること、また、消費期限を記載して管理することが期待されます。	災害備蓄品をリスト化して飲料水・食料の賞味期限を定期的にチェックするよう行っていく 災害時の備蓄品として3日分の飲料、食料を用意する。	災害備蓄品のチェックリストを解る場所に保管し賞味期限切れ等に注意して定期的にチェック管理を行っていく	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。